

## 美しい山形・最上川フォーラム平成24年度通常総会 議事録

日 時：平成24年6月21日（木）13：30～15：00

場 所：緑町会館 401号会議室

### 1. 開会

司会（公益社団法人水質保全協会 森さん）

本日は、大変お忙しい所をお集まりいただきましてありがとうございます。ただ今から、平成24年度美しい山形・最上川フォーラム通常総会を開会します。私は、本総会の司会を務めさせていただきます、会員の公益社団法人山形県水質保全協会、森でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、会長の柴田洋雄から、ごあいさつを申し上げます。

### 2. 会長あいさつ

（柴田会長）

前回の総会から一年が経ちましたけれども、大震災以来の一年間ですので、もっと華々しく色んなことができるかと思ったのですけども、どちらかという地味な形になったと思うのです。ただ、この美しい山形・最上川フォーラムの趣旨である、美しい環境を作ろうということと、地域経済を活性化させようということについては忘れないで進めてきたつもりです。

前回の総会の時に新年度はこういう方向でいきたいとお話した、ひとつは東北・夢の桜街道ということで、東北6県の桜の名所を指定し、観光資源として提案し、少しでも賑わいを出したいという形を提案しました。これについては今年度4月から実際桜が咲いたんですけども、フォーラムも参加する東北・夢の桜街道としては、福島の三春の滝桜でもってイベントを開催しました。今年は異常気象というかもものすごく寒くて、今まで経験がないくらいの寒い中での桜だったんですけども、幸いにも当日はNHKが2時間番組を作るということでライトアップをしましたので、我々がやっている時は夕方明るいうちはそれほどでもなく芽だけだったんですけども、夜になってライトアップすると新芽がきれいにピンクになって、満開のような形に美しくなったなあという感じがしました。

それで多くの人に来ていただいたんですけども、そのとき感じたのはやっぱり桜は人を惹きつける力があるということを感じました。その中で平野啓子さんが話していたのですが、地元の町長さんが桜は花を見るだけでなく、ぼく（木）も見て下さい。ようするにあそこの場合、千年の時代を経たものなんですけども、そういうふうな長い時間かけて大事にしているものは価値があるんだということを教えられて、我々としても活動を継続することによって、少しでも価値のあるものを地域に残していけたらなあと思ったところであります。

もうひとつは、これも3年前くらいのときに、朝日町のダムのところでゴミの量を考えたときに流木が3割くらいあるということで、これまではどちらかという我々が拾えるプラスチックとか普通のゴミとか生活用のゴミを拾うことを目的にしていたんですけども、流木を減らす事も非常に重要だということでこれも活動に入れております。これはその後海岸沿いのゴミについても流木が3~4割くらいあって、どうも内陸から出てきているらしいと指摘されているもんです

から、やはり流木を減らす事が重要だなあということで、これについても今年度から流木を減らすために森林を元気にする、そのために流木が出ないための間伐の仕方、今までは山形県緑環境税を使っての間伐をしているのですが、その場合は原則として間伐した木は持ち帰ってはいけないと聞いていたんですけども、新年度になって、国土交通省や林野庁の補助金を得たものについて、間伐したものは持ち帰らなければいけないということで、我々の主張と同じ方向になったので、県の方には是非ルールを見直して欲しいと申し立てしております。

もうひとつは間伐した木を持ち帰らない理由は、持ち帰ることによるコストよりも安い価値しかないということが原因で、お金をだして持ち帰るのは大変でなかなか進まないということがわかったものですから、木材を有効に利用するための仕組みをつくろうということで、木材関連産業がどれだけ地域に貢献しているかということについて研究しました。それは県の協力をもらって産業連関表を使いまして、今までは木材は林業しか取り上げていないんですけども、林業と木製材とか家具とかそういった木材関係、建築ものの木造建築、そういうのを含めた木材関連産業という形のくくりでもってどういう風な効果がでているかを調べてもらったんですけども、そのときのひとつの特徴は地元の調達率、自給率を5%現状から上げただけで働く人の場所が700人分新しく発生します、所得は100億円増えますというかたちで、自給率を高める、地元の木と業者を使うという形をすると地域経済の効果が上がるということが判りましたので、それを進めていこう、ということを考えております。

そういうことで木材が有効に利用されることのネックでありました、これまでの耐火性に問題があるとか耐震性に問題があるとか、耐久性に問題があるという木の持っている弱点があります。それを技術によってカバーすればそういう弱点が活かせるんじゃないかということで、木材に関する技術開発と、それから地域の木材を使うことによる地域経済の活性化の二つの工夫を進めることによって、木材が山に放置されることが無くなるんじゃないかということで、これは少し時間がかかるけれど進めていこうと今やっているところです。

これについては林野庁に報告しましたら林野庁は大賛成で、山形だけでやるのはもったいないので、全国でこの運動を広めてくれないかということから、現在全国19ヵ所で木材を利用した地域づくり、木材を利用しましょうという推進運動のセミナーを開いているところです。

そういうことで、当初我々が考えている美しい水環境を作ろうということと、地域経済を活性化させようということの延長上になるかもしれませんが、そういう運動のように少しウイングを広げることによって、我々自身の地元の活動も良くなるかなあと思ってやっているところです。

それで一番関心が持てる場所は会員の数なんですけれども、これは従来どおり一進一退でなかなか万人にならないです。私が会長になった時に、万人を目標にしますということで、どこかの政党のマニフェストでないですが、実現できないマニフェストは無視してもいいと最近言われているので安心しているのですが、少しでも増やしたいということなんですけれども、仕事の関係で辞めてメンバーが減る、その後4月5月に金融機関の協力をもらって増やす、またこの前は県庁にあって県庁の全部の職員に配布して入りませんかということをやったんですけども、それによってまた少し戻ってきているという感じで、今の所は一進一退の状態なんですけれども、これがもっとどんどん増えていくようにするためには、我々の地道な活動をもっと継続することが最

大の強力な手段かなと思ってやっついこうと思っています。

そういうことで本日の通常総会は年に1回なんですけども、皆さんから事業の展開についてのクレーム、それから新しい事についての注文を聞きながら、新年度には難しかったとしても翌年度の事業に活かせるというような形で、会員の皆さんの意向を反映するような形で進めて行きますので、本日の会議を積極的に意味のあるものにしていただければありがたいと思います。よろしくをお願いします。

司会（森さん）

ありがとうございます。

ここで、美しい山形・最上川フォーラム顧問である、吉村美栄子山形県知事より総会にメッセージを頂戴しております。運営委員の廣瀬委員より、ご披露申し上げます。

メッセージ披露（廣瀬委員）

こんにちは。運営委員であります。県の企画振興部長ということでもございますので、本フォーラムの顧問であります知事から総会へのメッセージを預かってまいりました。私からご披露申し上げたいと思います。

本日、美しい山形・最上川フォーラムの開催にあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

フォーラムが設立されて昨年で10周年を迎えました。この間、フォーラムにおいては、山形県の母なる川「最上川」を美しい山形づくりのシンボルに掲げ、水環境の保全や文化の継承、さらには地域経済の活性化などに資する事業を県内各地の様々な方々の連携のもと精力的に進められてきました。

会員の皆様におかれましては、フォーラムの一員として、豊かな自然環境や文化を後世に引き継ぐために日々御尽力いただいております。地域に根ざした活動が脈々と行われていることに対し、心から敬意を表する次第です。

さて、昨年の東日本大震災から東北が復興を果たしていくため、最上川フォーラムと多摩川フォーラムが中心となり「東北・夢の桜街道」プロジェクトを始動されました。桜を愛する心で東北を応援していただく輪が全国に広がることはとても素晴らしいことです。とともに、全国の多くの方から東北・山形を訪れていただき、そして皆さんの手で守り、育てている美しい山形に触れていただくことが、復興のためには何より大事なことであります。県といたしましても、「日本一『さくらんぼ』祭り」を今週末に開催するなど、山形の四季折々の恵みを全国に発信する取組みを順次進めておりますが、皆さまとともに山形の美しさや良さを大いにPRしていきたいと願っているところであります。

フォーラムは設立10周年という大きな足跡を残されました。そして、美しい山形を次世代の子ども達に残していくため、これからも力強い活動が展開されるものと期待しております。美しい山形がさらに輝きを増すことを確信しながら、私のメッセージといたします。平成24年6月21日、美しい山形最上川フォーラム顧問、山形県知事吉村美栄子。

代読させていただきました。

司会（森さん）

ありがとうございました。

次に役員を紹介いたします。運営委員はお名前をお呼びしましたら、その場にお立ちください。昨年度から変更された方もいらっしゃると思いますので、本日あらためてご紹介させていただきます。名簿順にご紹介いたします。

（役員を紹介）

以上でございます。なお、本日は関係機関の皆さまにもご出席いただいております。

それでは次第に従いまして、進めて参ります。総会の議長は、規約第 10 条第 3 項の規定により、会長が行うことになっております。柴田会長、議長席へ移動してください。

### 3. 議事

#### （1）平成 23 年度事業報告及び決算

議長（柴田会長）

それでは議事に入らせていただきます。いつもと同じですが、円滑な議事進行にご協力をお願いします。なお発言は自由ですが、発言する際には挙手をいただいて、その場に起立してお話しいただきますようお願いいたします。事務局員がマイクを持って行きますので、マイクを使ってお話しください。

また本日の会議についての議事録署名人の制度があるんですけども、議事録署名人の指名を行いたいと思います。指名方法について、みなさまからご意見ありましたら承りたいのですが、いかがでしょうか。

特に無ければ、事務局から提案いただいてよろしいでしょうか。

（会場異議なし）

事務局（伊藤事務局長）

それでは、議事録署名人につきましては、横尾渡さんと奥山弥寿之さんを提案いたします。

議長（柴田会長）

今、議事録署名人として横尾渡さんと、奥山弥寿之さんが提案されましたが、お二人にお願いしてよろしいでしょうか。

（会場異議なし）

議長（柴田会長）

それではお二人に議事録署名人としてお願いします。ありがとうございました。

議長（柴田会長）

議事に入ります。

まずひとつは、第 1 号議案の平成 23 年度事業報告・決算案について、各部会の報告については部会長さんからお話しをいただきたいと思っております。部会についての順番は、清流・環境対策部会については菅原さんから、最上川文化・地域活性化部会については本間さんから、それ以外のところについては事務局、それから 23 年度決算という形の順番で進めていきたいと思っております。それではよろしく申し上げます。

#### 菅原部会長

第 1 号議案、平成 23 年度事業報告のなかの清流・環境対策部会について報告申し上げます。資料を読み上げることによって報告に替えたいと思っております。

東日本大震災の影響により「身近な川や水辺の健康診断」を例年より 1 ヶ月延期して実施しましたが、22 年度並みの参加をいただき、また「クリーンアップ・キャンペーン」は小学校単位での参加申し込みが増加いたしました。

これらのステップアップ事業「ゴミ発生源対策『捨てない・すてさせない in 最上川』」は、国土交通省で鉄柵を設置し調査している他、会長・地域部会長・事務局長が県内 35 市町村長を訪問した際に、ゴミの引きあげ・処分のより具体的な取り組み、総合入札制度の導入等ですか、を呼びかけた。さらに、山形県海岸漂着物対策推進協議会と連携し、河川流域と沿岸域の協力体制を強化すると共に、22 年度に引き続きモデル地区の取り組みを「最上川環境マップ」に掲載しております。24 年度に向けて、河川活動に関する人材育成を検討中でございます。

この主な事業内容が 1 から 5 までございます。まず最初に、1 第 10 回身近な川や水辺の健康診断、平成 14 年度からの継続事業でございます。実施状況は例年とだいたい同じような時期に行わせてもらっております。23 年度については、7 月 2 日から 7 月 10 日まで、学校などについては 8 月 26 日まで延長させていただいております。調査内容は透視度計による透視度調査、パックテストによる水質調査です。水質調査の項目はそこに記載してあります 6 項目でございます。特に COD については国土交通省と全国の市民団体との連携で、身近な水環境の全国一斉調査ヘデータを提供させていただいております。調査内容、水辺の環境、水質だけでなく周辺の様子等についての簡易調査を行っております。また水生生物調査も行っております。水生生物調査は例年環境科学研究センター様から協力いただきまして、同時に申込み可能としておりますが、23 年度についてはずれ込んだということで、申し込みは別々にさせていただきました。参加申込みは、110 団体、1162 名、285 ヲ所でございますが、調査を実施した結果は 101 団体、1028 名、257 ヲ所、その表のとおりでございます。

事業に対する支援といたしまして、パックテストと比色カードについて、国土交通省さまから多大なご協力をいただいております。そしてまた公定法による水質調査をここに記載してございます、6 事業所の方から協力をいただいております。ありがとうございました。

参加者説明会でございますが、地域部会で 4 ヲ所やることになっているのですが、これまで数をこなしたこともありまして、23 年度は 2 団体ということで実施させて頂きました。庄内地区の説明会が 6 月 25 日、置賜地区の説明会は白鷹町内の小学校全て全 5 校で行いました。しらたかサイエンスクラブが高山団長の協力により、指導を実施いたしております。そしてまた、参加者への調査のサポートですね、それを協力会員、国土交通省様、山形県理科学分析センター様、山形県水質保全協会様、しらたかサイエンスクラブ様の協力をいただきまして、現地で実施いたしております。

二つ目の事業が、第 9 回美しい山形クリーンアップ・キャンペーンです。これは平成 14 年度からの継続事業です。実施状況は 8 月から 10 月、55 団体 1,347 名の参加をいただいております。参加なさるグループに対しては活動経費の一部を支援させていただいております。10 名以上 5

千円、10名未満3千円ということでございます。調査結果につきましては最上川フォーラムのホームページ上に掲載させていただいております。参加状況結果は表のとおりでございます。同様にこの事業についてのイベントのコラボレーションを行っております。8月28日に白鷹町の黒滝会と事業報告会と併せてフットパスのクリーンアップを行っております。9月9日に水土里ネット三郷堰、フレンドシップ水辺の郷サミット、中山町で参加者62名をいただいております。3番目の事業といたしまして、ゴミ発生源対策、捨てない捨てさせないin最上川、これは21年度からの継続事業です。モデル地区3市6町の取り組みを22年度より継続してアンケートを実施しております。ホームページで「もがみがわ環境マップ」で公表しております。南陽市では総合評価方式入札制度の基準点見直しについて検討中でございます。国土交通省山形河川国道事務所様では、平成22年度より引き続き、樋門・樋管9カ所に鉄柵を設置し、回収ごみの調査を継続実施。データ蓄積を行い、季節による回収ゴミの傾向調査や土地利用区分に沿った対応の検討などに利用していく、ということになっております。設置地点は、長井市3カ所、米沢市2カ所、白鷹町・高畠町・南陽市・川西町というところでございます。

関連しまして、山形県海岸漂着物対策推進協議会との連携を強化いたしております。河川流域と沿岸域が一体となった取り組みを展開し、全県を挙げ、海岸漂着物の回収処理や発生の抑制に取り組んでいくための、美しいやまがたの海づくりプラン策定に参画いたしております。プランのスタートにあたり開催された、海岸漂着物対策・キックオフイベントのパネルディスカッションにて、柴田会長がパネラーとして7月6日参加いたしております。

会長・地域部会長・事務局長が会員になっていただいております、県内全市町村の首長さんを訪問させていただいております、その時に各市町村の対策を確認いたしております。モデル地区におきましては、ゴミ回収に係る総合評価方式入札制度について検討を促させていただいております。

次の事業といたしまして、もがみがわ水環境発表会、平成17年度からの継続事業でございます。山形県環境科学研究センター様と連携いたしまして、第7回もがみがわ水環境発表会を開催しております。県内各地におきまして水環境向上の活動に取り組む個人、団体、学校、研究施設が、日ごろの活動や研究成果を発表いたしております。11月6日に遊学館第1・2研修室、参加者約120名をいただいております。共催といたしまして、国土交通省様、財団法人山形県生涯学習文化財団様、山形県様から共催をいただいております。協賛につきましては、山形県浄化槽工業会様、株式会社理研分析センター、公益社団法人山形県水質保全協会、一般財団法人山形県理化学分析センター、大岩環境技術士事務所様から協賛をいただいております。後援といたしまして、山形県教育委員会、各新聞社、各テレビ局からの後援をいただいております。発表内容は口頭発表10団体、ポスターセッション12団体、合計22団体の発表をいただいております。講演におきまして基調講演を山形大学農学部准教授でいらっしゃいます渡邊先生から、水魚の交わりという内容で講演をいただきました。

5つめの事業といたしまして、このもがみがわ水環境発表会におきまして、第3回美しい水辺づくり功労賞という表彰制度で表彰させていただいております。23年度は3団体を表彰させていただきました。県南漁業協同組合、米沢中央高等学校科学部、子どもの未来を考える会・東根市立大富小学校科学クラブでございます。図書カード等を贈呈させて頂き、表彰状とともに贈らせて頂きました。この水環境発表会要旨集へ活動を掲載させていただき、さらにポスターを作成し会場にて掲示させていただきました。縮小版を受賞団体へ進呈させていただき、ホームページにも掲載しております。事業については以上のような概要でございます。

議長(柴田会長)

はい、ありがとうございました。引き続き、最上川文化・地域活性化部会について本間部会長からお願いします。

本間部会長

本間でございます。私の方からは、最上川文化・地域経済活性化部会の報告をさせていただきます。最初、前段を読み上げて、その他の部分につきましては概要をご説明させていただきます。

フォーラム設立 10 周年記念事業を開催し、多くの皆様にご参加いただきました。また首都圏で活動を展開している美しい多摩川フォーラムとの広域連携事業として、東日本大震災被災地域を含む東北 6 県の桜を通した、長期的な復興支援プロジェクト「東北・夢の桜街道～桜の札所・八十八カ所巡り」を開始いたしました。東北各県の知事へは、フォーラム顧問である吉村知事から呼びかけていただきまして、ご賛同を得ました。最上川夢の桜街道づくりは、維持管理・桜守育成のための支援を強化しております。「水辺の四季」写真コンテスト受賞作巡回写真展を県内 4 地域・5 会場において開催いたしました。環境先進都市づくり構想～次世代木質建築推進山形協議会は、中間報告資料を作成しHPに公表しております。

まず、第 1 に 10 周年記念の事業であります。新しい方に申し上げます。講師の宮坂不二生さんという方は、かつて山形の日銀の所長をやっております。桜をテーマに観光と経済の発展を目指してこの会を立ち上げたという方です。そんな意味から講師を宮坂様をお願いしております。鼎談に関しましては、高橋副知事、ダニエルカールさん、柴田会長と 3 名の方で話しをしていただきました。参加者は 70 名でございます。

次に 2 番目ですが、東日本大震災復興支援プロジェクト、東北・夢の桜街道～桜の札所 88 カ所巡り～であります。先ほど申し上げましたように、吉村知事から東北 5 県の知事さんをお願いをしまして、快くご承諾をいただき、後援をさせていただいております。次に (2) がありますが、東北・夢の桜街道推進協議会への参加。東北・夢の桜街道プラン推進のため、美しい多摩川フォーラムと協議会を立ち上げております。国土交通省様より 920 万というご採択をいただいております。次に 3 番目ですが、最上川夢の桜街道推進地域活動、こちらの方は 14 市町村 17 団体で、植栽、手入れなどの活動を実施しております。(2) 次のページですが、最上川夢の桜街道～美味しいやまがた桜の札所・三十三カ所巡り～の運動を始動しております。これは前にも申し上げましたとおり、88 カ所からもれた山形県内の美しい桜の名所ですか、たくさんありますので、その 88 カ所からもれたところを 33 カ所で全部カバーしたわけではないのですが、一応 33 カ所指定してこの運動を開始しております。次に 4 番目になりますが、最上川夢の桜街道づくり技術研修会、山形西公園、これは前明石橋の西側になりますが、そちらのほうで研修会をやっております。機関紙夢の桜街道～さくら物語、これを第 14 号発行しております。次に 5 を 6 に変えていただきまして、第 2 回やまがた水辺の四季写真コンテスト受賞作巡回写真展であります。記載のとおり庄内会場、最上会場、村山会場、置賜会場、それぞれ来場者は記載の方々からおいでいただいております。次に環境先進都市づくり構想、これに関しましては、今年度の事業とも関連しておりますが、5 月 21 日林野庁の方に会長、事務局長が行っております。先ほど会長が申されたように、木材をいかに文化と経済に結びつけて経済の発展、活性化を目指していくかというような事でもありますので、これも皆さまからご理解をいただいてやってまいりました。啓発資料としてポスター、カードなどを作り、あるいはホームページ、メールマガジン、ブログなどの運営により活動を紹介しております。以上、私の方からの報告といたします。

議長(柴田会長)

ありがとうございました。地域部会とその他の所については、事務局からお願い致します。

伊藤事務局長

よろしくお願ひします。6 ページが地域部会の概況でございます。それから 7 ページの方におきまして総会・運営委員会・部会、その他助成事業、連携事業等記載してございます。

地域部会につきましては、地域の特性それから会員のニーズを踏まえつつ、各地域部会においてテーマを決め研修会や研究会を実施したと。地域住民や各種団体等が参加できるように配慮し、フォーラム活動への協力団体とのネットワークを拡充している。また、23 年度より県内 35 市町村すべてが会員となり、会長・各地域部会長・事務局長が市町村長を訪問し、意見交換をいたしました。今後は、地域のリーダーの積極的な育成を検討いたします。

置賜地域部会、カッコだけ読ませていただきます。地域の宝を後世に引き継ぐ活動それから、2 河川環境美化活動の実施、3「身近な川や水辺の健康診断」事前指導・調査サポートの実施などを行っております。村山地域部会につきましては、「夏休み体験学習会～最上川を調べてみよう～」の実施です。それから西公園桜維持管理活動、ヤマザワ様主催ですか、これに協力させていただきました。最上地域部会ではですね、いろんな今後の進め方などを協議しております。指首野川水質調査会の実施と。それから庄内地域部会につきましては、「身近な川や水辺の健康診断」の活動、さくら守実技講習会をやっております。それから、総会・運営委員会・部会についてはご覧のとおりでございます。その他助成事業、委託事業、連携事業でございます。1 みちのく国づくり支援事業、これは社団法人東北建設協会様で 10 万円 2 つ採択されております。それから山形県公募型雇用創出事業、これは山形県さんからですが、委託料 10,461,990 円をいただいております。その内容につきましてはここに書いてあるとおりでございます。3 番県民運動推進方策の検討事業、これは山形県さんからの委託事業でございます、499,800 円をいただいております。山形県海岸漂着物対策推進協議会との連携、それから市町村との連携を行っております。これらの採択額につきまして、活動に充分活用させていただいております。以上が、地域部会、総会・運営委員会・部会、その他につきましてご説明いたしました。

議長（柴田会長）

ありがとうございます。それではこういった活動を進めていく上での決算案がでているので、これについては事務局から説明します。

事務局（佐藤）

それでは事務局より平成 23 年度収支決算案をご説明いたします。収入の部は、会員の皆様からの会費収入が 628 万 1,520 円、県負担金 40 万円、県からの委託料 1,042 万 2,191 円、前年度からの繰越金が 156 万 1,007 円、夢の桜街道積立金から 101 万円、諸収入として各ご支援と、預金利子を合わせ 82 万 2,995 円、合計 2,049 万 7,713 円となっております。支出の部は、運営費が 1,045 万 8,912 円です。総事業費は 781 万 6,954 円で、①から⑭の事業に充当し、各事業費はごらんの通りとなっております。予備費として 3,315 円を、「最上川流域観光交流推進協議会」の会費として支出しております。他に、夢の桜街道への積立金が 101 万円となっております。以上、支出額合計が、1,928 万 9,181 円となっております。差引き 120 万 8,532 円を平成 24 年度への繰越金とさせていただきます。また、各積立金につきましては、「フォーラム基盤強化積立金」の 23 年度の期末残高が 110 万 8,435 円、「夢の桜街道積立金」の 23 年度期末残高が 101 万円となっております。

以上簡単ですが、23 年度の収支決算案の説明を終わります。よろしくお願ひいたします。



議長（柴田会長）

はい、ありがとうございました。ただいまの収支決算案につきましては、監事から監査を受けておりますので、その報告をお願いします。

監事（佐藤委員）

監事の佐藤と申します。先日、平成 23 年度の証拠書類、関係資料を見させていただきました。結果、相違なく正当である事を認めます。9 ページになります。併せまして事業の内容につきましても、監査いたしまして、正当であることをここに認め、報告をさせていただきます。以上でございます。

議長（柴田会長）

ありがとうございました。これまでの報告等について、皆さまからご意見、ご異議ありましたら、発言いただきたいのですが、いかがでしょうか。

（異議なし）

それではただいまの一連の報告について、原案のとおりお認めいただいたということでよろしいでしょうか。

（会場拍手）

それでは第 1 号議案を原案のとおり認めさせていただきます。ありがとうございます。

## （2）平成 24 年度事業計画及び予算

議長（柴田会長）

では続きまして、第 2 号議案の平成 24 年度事業計画案についてご説明していただきたいと思えます。

先ほど言いましたように、24 年度については去年よりまた一段と飛躍するというか活動範囲を広げておりますので、一連の説明があると思うんですけども、一つは山形県からの新しい委託事業がありまして、事務局員が今までの 2 人から 3 人になったということがあります。これ等も含めて、事務局長から後から説明があると思いますが、それぞれの部会の事業計画等について、先ほどと同じように部会長さん、事務局長等からご説明させていただきたいと思えます。ではよろしくをお願いします。

菅原部会長

では第 2 号議案の平成 24 年度事業計画案の清流・環境対策部会について、ご報告申し上げます。

清流・環境対策部会の今年度につきましては、重点的にここに書いておりますように、身近な川や水辺の健康診断、クリーンアップ・キャンペーンのステップアップ事業であるゴミ発生源対

策「捨てない・すてさせない in 最上川」の取り組みをモデル化する。さらに山形県海岸漂着物対策推進協議会と連携し、全県下における流域での取り組みを検討する。また環境学習の推進を強化するために、小中高生の各種事業への参加拡大を図る。という所に重きをおいて、事業計画を立てております。

事業の内容は継続的な事業が主でございますが、一つ第 11 回身近な川や水辺の健康診断、参加グループ数は例年同様だいたい 100 グループ、1000 名超の参加人員、250 くらいの調査地点ということで検討させていただいております。進め方につきましては 23 年度同様でございます。地震の影響はないので、水生生物調査につきましても、22 年度と同様に行わせていただきます。2 番目が、第 10 回美しいやまがたクリーンアップ・キャンペーン、この内容も 23 年度と同様の進め方で進めていきたいと思っております。3 番目ゴミ発生源対策「捨てない・すてさせない in 最上川」、23 年度の実績に引き続いて継続事業とさせて進めてさせていただきたいと思っております。地元の業者にゴミを回収してもらい、その企業を地域貢献企業として認定し、公共入札の時にポイントをつける総合評価方式入札制度の見直しにつきまして米沢市・南陽市が検討中ではありますが、他の市町村につきましても働きかけていく、ということでございます。国土交通省、置賜総合支庁、上流地区市町、山形県海岸漂着物対策推進協議会と協働して、これまでの取り組みや調査の実績をまとめ、上流地区での具体的実施策と、そのモデルを中・下流へ広げるための方策を検討する、ということでございます。4 番目もがみがわ水環境発表会、これまで同様山形県環境科学研究センター様の協力をいただきまして、実施時期や内容を検討していく所存でございます。例年通りでございますと、11 月の第 1 日曜日ですね、遊学館で発表というようなこれまでの流れでございますが、そうゆうことをベースにして進めていくことになるかと思っております。5 番目第 4 回美しい水辺づくり功労賞、表彰制度を始めて期間は短いわけですがけれども、やはり 24 年度も引き続きこれを実施しようということを進めさせていただきまします。ただし、選考基準について、ある程度手探り、試行錯誤しながらやってきた部分もございまして、その辺の選考基準を明確にして進めていきたいと思っております。6 番目最上川環境マップ、クリーンアップの調査結果、団体情報等を掲載していきます。これは最上川フォーラムのホームページ上で掲載していきたいと思っております。これまでも色々な調査結果については、報告書に文章で出す場合以外のものでも、ナマの情報をホームページ上に掲載させていただいておりますので、参考になさっていただければありがたいと思っております。7 番目川の安全利用等啓発事業、防災学習の一環として、川の安全利用などへ意識を高めてもらうために、県内の町内会・自主防災会・子ども会や小学校等を対象に出張講座を行います。「川ガイドブック」等を使用した安全利用に関する講習、「山形県河川・砂防情報システム」の PR、操作方法の説明、川をきれいに利用することなどの環境学習、ふるさとの川アダプト事業の紹介等を行って、啓発事業として進めていきたいというふうに思っております。8 番目、報告書笑顔を写す山形の川、23 年度に引き続きまして、清流・環境対策部会の事業について報告書を作成して発行していきたいと思っております。以上でございます。

議長（柴田会長）

ありがとうございました。つづきまして最上川文化・地域経済活性化部会お願いします。

本間部会長

それでは最上川文化・地域経済活性化部会の説明をさせていただきます。最初を読み上げさせていただきます。

最上川夢の桜街道づくりは予算を維持し、維持管理・桜守育成の支援に一層力を入れてまいります。「東北・夢の桜街道」事業は美しい多摩川フォーラムと推進協議会を立ち上げ、桜を活用した東北連携の復興支援 10 年プロジェクトを推進いたします。さらに県内の観光振興を盛り上

げる「最上川夢の桜街道～美味しいやまがた桜の札所・三十三カ所巡り～」を行ないます。桜をテーマに写真コンテストを開催し、県内外に山形県の魅力ある観光資源を発信して参りたいと思っております。

一つめ、東日本大震災復興支援プロジェクトであります。これは美しい多摩川フォーラムと連携し、東北夢の桜街道推進協議会のメンバーとして、桜をシンボルに東北の復興を目指した観光振興運動を行って参りたいというふうに思っております。山形県内の札所市町村に協力を求め、25年の取組みにつながるよう連携を図る、鶴岡の活動を紹介し、と書いてありますが、これは先ほど皆さまのお手元に配布しております新聞のコピー、これをご覧になっていただきたいと思っております。交流と情報交換を目的に会議を開催して参ります。最上川夢の桜街道～美味しいやまがた桜の札所・三十三カ所巡り～、これは88カ所の札所と連携して参りますが、東北を訪れた方々の周遊コースに山形県内を取り入れてもらえるよう、魅力ある観光情報を提供していきたい、ということでもあります。第4回夢の桜街道写真コンテストと連携してこれも取り組んで参りたいと思っております。写真コンテストであります。今年の締め切りは6月29日。6月20日現在、昨日までの時点で72名の方から176点の出展がございます。22年度には、110名の方から252点をいただいておりますので、それにはもう少し足りないということですが、出来ましたら今日お出での皆さまからも、ご自身あるいはお知り合いの方から応募していただければ大変ありがたいと、思っております。4番目最上川夢の桜街道づくり、これは山形新聞主催の最上川桜回廊、これといつも色んな方からどうなっているのだ、というふうな事を言われますが、先に黒澤社長さんと柴田会長の方でお話しをして、山形新聞さんの方は桜を植えるのが主、そして私どもの方は桜守の育成など力を入れておりますので、その維持管理というようなことで連携していけるのではないかと、話しをしております。私もこれから同窓会、私的になりますが黒澤社長と同窓会でこれからお話し合いをこの件でしたいと思っております。5番目、夢の桜街道さくら物語であります。事業報告を主とした機関紙として発行して参りたいと思っております。編集委員は随時募集をして、地域レポーターを募集するなど、会員参加を重視したものとしてまいりたいと思っております。6番目、平成24年度夢の桜街道キャンペーン、4月から5月にかけて協賛金融機関各支店で開催いたしております。これは既にキャンペーン済みのところもありますが、これからも啓発物品の予算を睨みながら、良いものを作ってPRをしていけたらと思っております。7番目、環境先進都市づくり構想であります。先ほど申し上げたように5月21日だったと思っておりますが、林野庁の方へ会長・事務局長の方でお訪ねをして、報告あるいは意見の交換をしております。ここで何ですが、後ほど会長の方からその辺の詳しいお話しが聞けるかと思っておりますが、そんな所で進めております。8番目、最上川舟運文化シンポジウム、この“しゅううん”と読むのか、“しゅん”と読みあげるのか迷いまして確認しましたら、国土交通省の方では“しゅううん”というふうに読むのだそうで、ここでは“もがみがわしゅううんぶんか”というふうに申し上げます。隔年開催としておりますが、今年は開催しないという年にあたりますので、開催いたしません。ホームページの更新であります。皆さん方により見やすいものを作って参りたいということがございますので、できましたら色んなご意見を皆さんがたから頂戴できればと思っております。以上です。

議長（柴田会長）

はい、ありがとうございました。その他の地域部会等については事務局長からお願いします。

伊藤事務局長

それでは地域部会でございますが、各地域部会が主体となり運営をいたします。地域の特性や会員のニーズを踏まえつつテーマを決め、研修会や研究会を開催します。実施に当たっては、地

域住民や各種団体等が参加できるように配慮し、フォーラム活動に協力していただける団体とのネットワークを拡充いたします。地域住民・企業・教育機関・行政など様々な主体との連携を目指し、新しい公共の取り組みとしての活動を進めてまいります。

まず置賜地域部会、身近な川や水辺の健康診断を引き続き広めていきます。それから最上川夜話を聞く会というものを引き続き開催いたします。それから桜に関する事業を検討して参ります。村山地域部会、桜の維持管理活動への参加、身近な川や水辺の健康診断の開催の説明会といったものを行います。それから、酸性雨ネットワークとの連携を図って参ります。次のページ15ページでございます。最上地域部会につきましては、指首野川の水質調査と、前年度に実施しておりますけれども、追跡調査を実施いたします。それからバイカモですが、水生生物とかその辺の生態も併せて調査をいたします。指首野川を愛する会など関係団体との連携について検討していきます。庄内地域部会ですが、桜守の研修会と、庄内での研修会がぐるっと一巡しましたので、色々な団体等それから桜街道巡り札所などと連携した企画を検討しております。美しい山形の海プラットフォームとの連携であります。それから身近な川や水辺の健康診断の活動も引き続き実施をしております。

それから総会・運営委員会・部会につきましてはご覧のとおりでございます。その他助成事業・委託事業・連携事業などがございますが、(1)から数字を間違えましたが(6)までこのような活動を引き続きやって参ります。色々な受託事業につきましては、後ほど確定したものについてご報告を申し上げます。以上です。

議長（柴田会長）

はい、ありがとうございました。今説明いただいた2号議案の事業を行うための予算の裏付けというか、収支予算、事業年度の美しい山形・最上川フォーラムの収支予算の案について、事務局から説明をお願いします。

事務局（佐藤）

それでは16ページをご覧ください。平成24年度収支予算案をご説明いたします。はじめに、収入の部です。会費収入が565万3,000円、県負担金が40万円、山形県緊急雇用創出事業臨時特例基金事業、東北の桜による震災復興支援県活動推進事業費ですが1,045万3,800円、同じく山形県緊急雇用創出事業臨時特例基金事業、川の安全利用等啓発事業費が495万4,068円、繰越金および積立金が221万8,532円、諸収入には団体助成金、預金利子など68万600円です。以上、収入の合計額は2,436万円となっております。つづきまして支出の部です。運営費が1,385万円で、内訳は交通費40万円、需用費105万円、役務費120万円、使用料は事務局賃借料を含めまして70万円、事務局費は事務局員3名分の給与、社会保険料等といたしまして1,050万円を見込んでおります。事業費は1,042万1,000円で、内訳は①～⑥のとおりです。予備費が8万9,000円。以上支出合計額は2,436万円となっております。また、フォーラム基盤強化積立金が110万8,435円、収入の部に計上しております夢の桜街道積立金101万円です。基金などと致しまして、山形市コミュニティファンドの4万5,000円、やまがた社会貢献基金の2万3,989円を別枠に記載しております。以上で平成24年度収支予算案のご説明を終わります。

議長（柴田会長）

ありがとうございました。これで2号議案の説明を終わりましたが、2号議案、平成24年度事業計画それにとともなる予算の説明があつたんですけれどもこれについて皆様からご質問・

ご意見ないでしょうか。

発言者（横尾さん）

3つ質問がございます。座らせていただきます。清流・環境対策部会の7番の川の安全利用啓発事業の出張講座を行うという事業がございますけど、これは誰が講師になるのかということがまず1つの質問、2つめは文化・地域経済の方の8番、舟運シンポジウムって去年やりましたか。先ほどの報告になかったと思うので、隔年だったら今年あるのかな、というのが2つめの質問。3つめは、村山地域部会に酸性雨ネットワークとの連携とあるのですが、私は不勉強でそこが判らないので、教えて下さい。

議長（柴田会長）

これはですね、今年度から始まる事業で、準備する事務局員は就いたんです。で、誰にお願いするかというのは、それぞれの所について適任者を探しながら行うということで、固定した人を決めてやっていくんじゃなくて、地域部会とその場所における学校とか、色んな人と相談しながら適任の出張講座が出来る人をお願いするような形をもって行っていくというふうな計画ですよ。

伊藤事務局長

それではせっかくの機会ですので、今ここに新しく入られた方がいますので、本人の方からも若干説明させていただきます。

事務局（皆本）

それでは説明させていただきます。この度5月21日より美しい山形・最上川フォーラムに勤務させていただくことになりました、皆本浩美と申します。よろしく申し上げます。私は主に山形県県土整備部河川課の受託を承っておりまして、川の安全利用についての出張講座などを対応させて頂いております。この内容は、議案書の方にも記載されていると思いますけれども、防災学習の一環として、川の安全利用などへの意識を高めてもらうために、県内の町内会、自主防災会や子ども会、また小学校等を対象に出張講座を行わせていただく内容になっております。山形県の県土整備部の方から配布されております、川のガイドブック等を活用させていただいたり、また入口の方の先ほどご案内をさせていただきました所にパンフレット等掲示物を備えさせていただいておりますが、後ほどお帰りの際に見ていただければと思っておりますが、山形県河川砂防情報システムとのPRなども行わせていただいております。あと山形県の方からふるさと川のアダプト事業等のアダプトっていうのは何なのか、ということもお子様に話をさせていただきまして、地域貢献に務めるよう広くお話しをするような形をとらせていただいております。山形県の方からは、35回の出張講座の依頼を承っておりまして、現在の所川や水辺の健康診断等と併用させていただきまして、だいたい小学校にご訪問させていただいて今の所20回ほどの講座予定が入っている現状でございます。もし皆さま方の地域で、小学校、あとは町内会、自主防災会、子ども会などで私どものお話しを広めさせていただく機会を設けていただければ、なおありがた

いと思っておりますので、どうぞ協力の方をよろしくお願いいたします。以上です。

議長（柴田会長）

ということで、県の方で作られている資料を使って本フォーラムの事務局が説明するということなんですけども、慣れてくれば少し地域の人たちにも参加してもらって講師としてお願いするという形で、少し意味のあるような形に広げていくような努力は続けたいと思います。よろしいでしょうか。

それで2番目の昨年度が舟運文化シンポジウムを開いていないということですが、これについては事務局長のほうから。

伊藤事務局長

これは10周年記念事業に変えさせていただいたということでありまして。以上です。

議長（柴田会長）

3番目の酸性雨ネットワークとの連携の話ですが、それは村山地域部会長から。

渡邊村山地域部会長

それでは酸性雨ネットワークについて、ご説明申し上げます。これは酸性雨ネットワークとしていますが、温暖化対策等を広い意味で研究している団体でございまして、山形大学医学部の柳澤先生を会長にしておられます。山形大学工学部、農学部、それから公益文科大の研究者と、県の研究機関、民間の研究機関、それから一般の皆さま方から会員として登録していただいているのですが、一般の団体でございまして。以前、酸性雨について研究発表等などもやっております。最上川水環境発表会などでも一緒に発表しております。そしてこの会員がほとんど最上川フォーラムの会員でもありまして、研修会等をやる場合も無償で、ボランティアでやっていたというのが現状でございまして。

議長（柴田会長）

よろしいでしょうか。その他皆さんから質問ご意見なければ、先ほど説明した第2号議案の各部会の事業、それからそれに伴う予算書について、ご異議がなければ認めていただいたということでよろしいでしょうか。

(会場拍手)

第2号議案をそのように認めさせていただきます。

### 3. その他

議長（柴田会長）

本日の議事は今の1号と2号なのですが、その他の議事がありますので、その他に入ります。

その他の所で報告事項がありますので、事務局からお願いします。

伊藤事務局長

はい、17 ページをご覧ください。まず1 が会員状況でございます。23 年 6 月と 24 年 6 月を比較させていただいておりまして、マイナス 82 名と。特に口座振替利用者が 102 名の減少となっております。5 月 30 日の日に県庁でキャンペーンをさせていただきました。企画振興部さま、大変ご協力をいただきまして、100 人を超える入会ということで、現時点でも継続して入会になっていただいておりますので、もう少し増えていくのではないかなと、いう感じがいたします。今後いろいろと退職などで減少致しますけども、またそういったキャンペーンをやりまして、金融機関様も同様でございますけども、とにかく維持拡大に努めて参りたいと思っております。

2 番目の委託事業でございますけれども、これは決定しているものをここに記載しております。委託事業、我々から見ると受託事業でございます。山形県さんから受託した事業についてご説明致します。1 番、山形県緊急雇用創出事業、ということで委託料が 1,045 万 3,800 円です。事業名がですね、平成 24 年度東北の桜による震災復興支援県民活動推進事業、ということで、東北の桜を活用した復興支援、復興のシンボルとして桜を利活用した観光振興の調査・検討、東北・夢の桜街道運動の展開でございます。2 番目として、美しい山形の探求と桜を継承する活動、東北を訪れた方々が山形を周遊したくなる魅力ある観光資源の提供と、こういった概要でございます。2 番目が山形県緊急雇用創出事業、これは委託料として、495 万 4,068 円でございます。事業名が平成 24 年度川の安全利用等啓発事業、ということで防災教育の一環として川の安全利用等への意識を高めてもらうために、県内の町内会や小学校等を対象に出張講座を行うと、先ほどご説明したとおりでございます。3 番目県民活動を推進する人材の育成事業ということで、委託料 50 万円でございます。これは仮でございます。県民活動を推進する人材の育成事業ということで、仮の題名をつけておりますが、フォーラム塾の企画運営、各市町村と連携し、地域の課題整理解決に向けた企画立案、対象とする団体、若者の募集を行い、フォーラム塾を企画いたします。他地域との情報共有と情報発信、各地域で開催したフォーラム塾の内容を共有し、情報発信するというので、この辺につきましては会長にいろいろ、塾長になっていただいております。以上です。

議長（柴田会長）

ありがとうございました。今の説明の所に関して何かご意見などないでしょうか。

(意見なし)

特に会員の所については、先ほど言いました用に 4,700、800 のところを上がったたり下がったりというような形で、いろいろ大学で研究していると、最初はずっと上がるんですよね、あと 10 年間くらいばたばたばたとなって、そこを繰り越すとさらにまた上がるというのが成功事例。そこが耐えられなくて落ち込むと失敗事例となりますので、我々フォーラムとしては今が一番大事な時期だなという感じがします。厳しくても、少なくとも 5,000 くらいは守るくらいの努力を皆

で続けていかなければいけないんじゃないかなという感じがします。これは私会長としてもやりませんが、皆さんも会員として、会員1人が1人を確保してくれると1万人になれるんです。1人が10人を確保するのは大変なのですけれども、1人が1人を確保するのは何となく出来るかなあという感じがするので。それでいつも言っているのですけれども、我々は会費を払ってくれる人を会員と言っているのですよね。登録している人を会員と言っているわけではないので、リアルな会員です。色んな団体は登録者数を会員と言っているわけで、実際お金を払ってなくても会員数が多いのもたくさんあるんですけれども、我々とすれば立ち上げ当初から会費を納めてくれる人を会員としている、というようなことで、そのために会費を1,000円から上げていないのですよね。これは多くの人に参加していただくことが好ましいなあというふうに考えているものですから。是非皆さんからもこういう活動をしているので、参加したらどうですかとお声をかけていただけると、次のステップに発展するかなと思いますので、厳しい12年目ですけれども、もうちょっと我慢の時かなと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

それからこの今説明がありました、委託事業の3番の県民活動を推進する人材の育成事業ということが、これは県からの委託なのですけれども、これは県からの委託というよりも我々フォーラム自身がやらないといけないなあ。つまりフォーラム我々10年過ぎると皆さんも10年前に入った時から10歳年をとっているわけですから。今後10年を考えると今よりも10歳年をとる、今は皆さん若くて元気だけれども、10年過ぎるとちょっと水質調査も厳しいかなあという感じがあるので、こういう会を続けるためには、若い人を是非参加してもらう必要があるなあという感じがします。これは行政にとってもそうで、地域の活性化というのは若い人がいろんな形で参加する事が必要じゃないかなあという感じがする。多くの団体において一番今欠けているのが、次のリーダーになる人をどうやって育てようかという事が最大の課題なので、幸いにも県の方で県民運動を推進する人材の育成というような形で委託がありましたので、これは我々とすればこの事業を通してフォーラムの次を担ってくれる人を育てたいなと思っているところです。その意味で、若い高校生とか高校を卒業して勤めた人とか、そういった若い人たち、地域のリーダーになるような人に、フォーラム塾というのは大げさですけど、こういう社会活動が楽しいということを知ってもらいたいかなあと思っているところです。これはいつも僕が言っているのですけれども、1個のパンを自分ひとりで食べてももちろん美味しいし、おなかいっぱいになるんですけれども、パンを半分は自分で食べます。あとの半分は誰かお腹すいている、困っている人にあげるとその人はありがたいと言ってくれるわけです。そうすると自分ひとりでパン1個食べたのと、自分ひとりでは半分食べて、あとの半分を他の人からありがとうと言われたのでどちらがうれしいでしょうか。僕は年をとったせいか、他の人からありがとうと言われた方が楽しいんじゃないかなあと思うんです。これは子供でも同じじゃないかと思うのですよね。そういうふうな考えの人が1人でも増えてきて、住みやすい社会を作るのが基本じゃないかなあという感じがする。聞いていると、全てじゃないけど、1個のパンがあるのにもう1個くださいとかね。もっとくださいという人はたくさんいるように聞くんですけども、半分でもいいですよ。その代わり本当にお腹がすいている人にどうぞというような形の社会に山形がなってくるとすれば、山形住みやすいという社会になるんじゃないかなあと感じがします。これは別に食べるものだけじゃなくて、仕事でもなんでも同じだと思うんですよ。そういうふうな考えで、人事育成の事業というのも重



要だなあと感じておりますので、これについては会員の皆さまからの協力をもらって、この人達だといいいんじゃないか、ここに来てこういうのやったらどうだと言われると、僕は本音を言うと忙しいんですよ。でもフォーラムのため、地域のためだったら出かけて行っているんな話しをして聞いて、それを活かす工夫をしたいなあと感じておりますので、是非皆さんからうちの地域の5人くらいか10人でもいいし、3人でもいいからこういう所に来てそういう事を試みる人達のコーディネートをしてくれないかとか、何かそれらしい人を連れてきてお話しをしてくれないかとか、そういう事に関しては汗をかくつもりでおりますので、是非お声をかけていただければと思っております。そういう意味で、今県の予算が非常に厳しいところで、50万の委託料。これはまだ仮なんですけれども、これを50万でなくて500万くらいになるような効果ある働きをしていきたいなあと感じますので、これは1人で出来ませんので、皆さんの協力が必要です。皆さんも参加してこれからの担い手の人たちも仲間に入れて、そういうふうな形にしていくのがポイントじゃないかなあという形で、次世代の人材育成の事業としてやっていきたいと思っておりますので、是非ご協力いただきたいと思いますと思っております。

ここまでで、皆さんから何かご質問ご意見等ありませんか。

(意見なし)

事務局（安孫子）

それでは事務局からご連絡をさせていただきます。冒頭でもお話しいたしましたが、この度封筒に直近のイベント等のチラシを入れさせていただきます。まず庄内地域部会の方で行っております、7月7日クリーンアップ作戦ですけれども、こちら締め切り明日までとなっておりますが、締め切り過ぎましてもご相談に応じていただけると聞いておりますので、是非興味もった方はご参加いただければと思います。もう一件、山形県教育庁文化財保護推進課さんの方で行っております、最上川の文化的資産県民投票というカラーの冊子が入っております。こちら6月30日今月いっぱい投票を受け付けているそうです。いろいろな最上川だけでなく、文化的な資産等を含めまして、山形県民に身近なものがたくさんありますので、是非投票してみてくださいと思います。投票方法は一番裏面8ページにも載っておりますが、インターネット他郵送などでも受け付けているようですので、是非お気軽に投票いただければと思います。その他、直近のイベントのチラシ等、後ろご自由にお持ち帰り下さいということで置かせていただいておりますので、お帰りの際にでもお持ちいただければと思います。以上です。

議長（柴田会長）

ありがとうございました。その他よろしいでしょうか。

(意見なし)

それではただいまの説明をもって、本日の会議は終わらせていただきたいと思います。

司会（森さん）

柴田会長ありがとうございました。以上をもちまして、平成 24 年度美しい山形・最上川フォーラム通常総会を閉会いたします。長時間にわたるご審議、誠にありがとうございました。